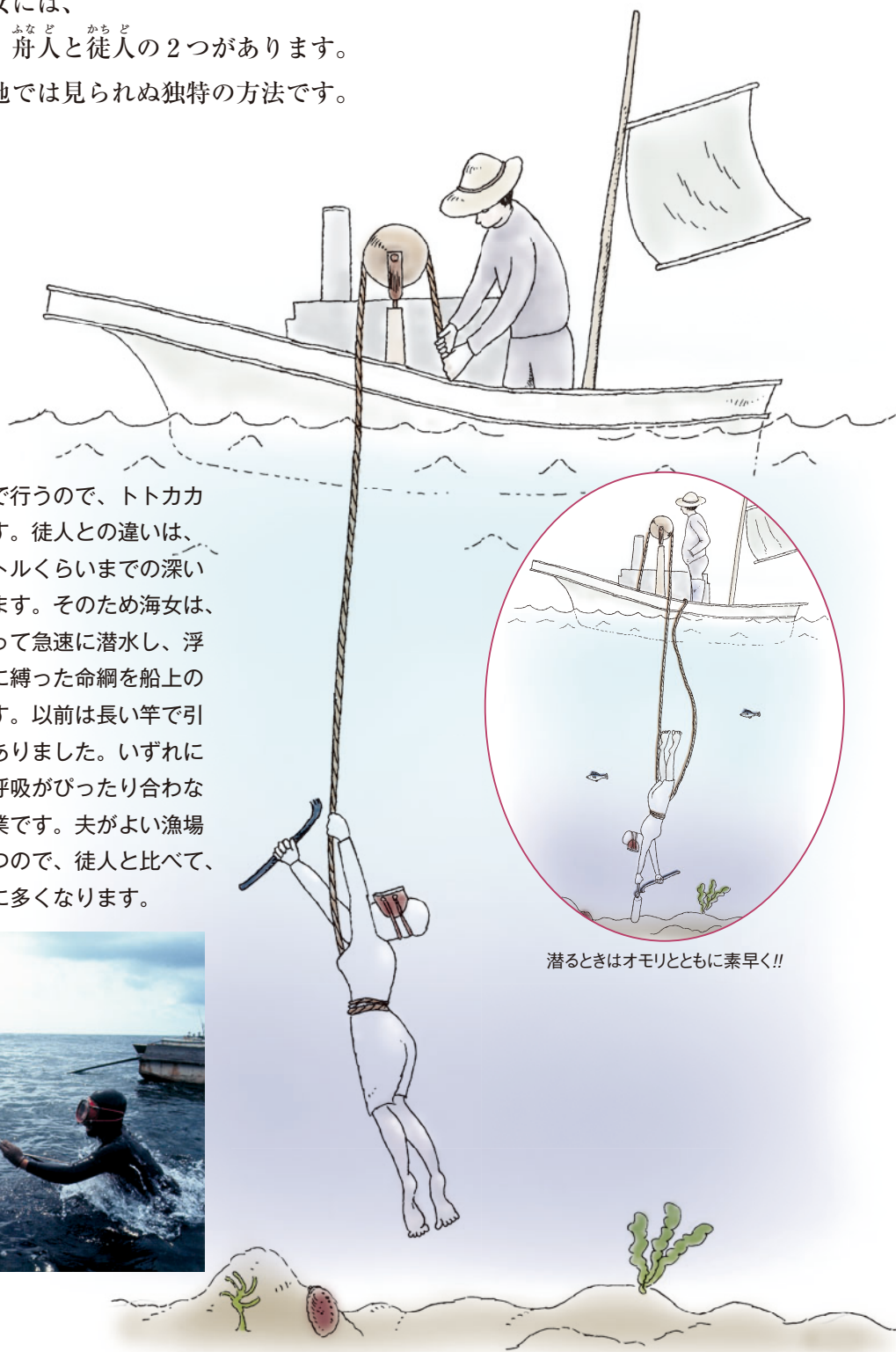


2

には、
ふなど かち ど
舟人と徒人の2つがあります。
他では見られぬ独特の方法です。

行うので、トトカカ
。徒人との違いは、
トルくらいまでの深い
ます。そのため海女は、
って急速に潜水し、浮
縛った命綱を船上の
。以前は長い竿で引
りました。いずれに
呼吸がびったり合わな
です。夫がよい漁場
なので、徒人と比べて、
多くなります。



潜るときはオモリとともに素早く!!

ふつう夫婦が船で行うので、トトカ力舟ともいわれます。徒人との違いは、水深10～15メートルくらいまでの深いところまで潜ります。そのため海女は、重いオモリを持って急速に潜水し、浮上する時には腰に縛った命綱を船上の夫が巻き上げます。以前は長い竿で引き上げた時代もありました。いずれにしても、夫婦の呼吸がぴったり合わないといけない作業です。夫がよい漁場に船の位置を保つので、徒人と比べて、漁獲量ははるかに多くなります。



潜るときはオモリとともに素早く!!

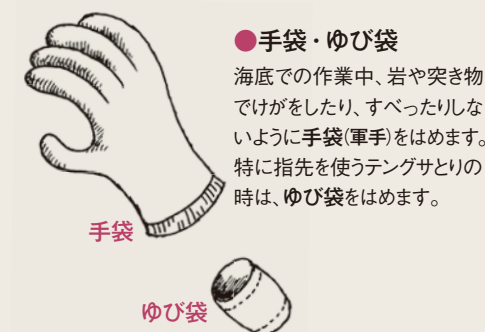
3～4 尋(4.5～6 m)の女竹(めだけ)で、途中まで浮上してきた海女の眼前に差し出し、船上からたぐり寄せるもので、鳥羽市の石鏡町・菅島町では最近まで使われていました。手が滑って引き上げが遅れ、事故にならないように、竿先には滑り止めの布や繊維が付けてありました。石鏡町では**インザワ**、菅島町では**ヒキザワ**といいます。



古く、磯メガネは2眼に別れて
いましたが、いまはすべて1眼
です。



アワビを石や岩からはがしとる道具で、アワビの大きさや場所によって、オオノミ、コノミを使い分けます。伊勢エビやウニにも兼用できるカギノミが多く使われています。アワビオコシ、イソノミともいいます。



海底での作業中、岩や突き物
でけがをしたり、すべったりしな
いように**手袋(軍手)**をはめます。
特に指先を使う**テングサ**のり
の時は、**ゆび袋**をはめます。

地区によって「イキヅナ・ヒキヅナ・チナワ」と呼び名が違います。磯車とともに舟人海女だけの用具で、苦しくなると合図して引っばりあげてもらい、文字どおりの命綱です。

平均すると海女の潜水時間は約50秒です。その時間内の勝負です。1秒でも早く海底に着くため、オモリが使われました。古くは石をくりぬいて穴をあけたクリイカリ、クリイシなどと呼ばれるもの。後には鉛のオモリで、どれもほぼ15キログラムほどの重さです。



分銅